山々に響く花火に大歓声 すき納涼花火大会

8月16日、小林市すき納涼花火大会が須木中学校で開催され、市内外から約2万人が訪れました。メインイベントは山々に大きく反響する迫力満点の花火。会場近くの川沿いから打ち上げられる約7千発の花火が頭上高く夜空を彩ると、会場からは歓声と大きな拍手が起こっていました。

ステージでは、市民吹奏楽団や須木地区の子どもたちによる踊りや「いちょう太鼓」の演奏などが行われ会場を盛り上げていました

㈱ＡＮＡ総合研究所と連携し シティセールスを推進

㈱ＡＮＡ総合研究所と連携し、市の魅力を市外にＰＲするシティセールス事業が7月からスタートしました。民間力を生かした地域振興を支援するふるさと財団の新・地域再生マネージャー事業を活用。ＡＮＡ総研から研究員を市民協働課に受け入れ、魅力の掘り起しやＰＲを行っていきます。

毎月５日間滞在する池野香織研究員。「小林市の魅力を市民の皆さんと一緒に探し、認知度を上げていきたい」と話しています

左）小型ポンプの部で優勝した第３分団第１０部
右）小型ポンプ積載車の部で優勝した第７分団第５部

西諸操法大会で２部が優勝 県大会への出場決める

7月27日、県消防協会西諸支部操法大会が高原町皇子原公園でありました。市大会で優勝した３つの部が出場し２つの部が優勝。県大会出場を決めました。第７分団第５部春口幸太部長は「県大会でもこれまで練習してきたことに自信を持ち、優勝目指して頑張ります」と抱負を話しました。

一貫教育と学力向上を目指し 教育の情報化の理解深める

7月31日、教育フォーラムが文化会館で開催されました。市内小・中学校の教員ら350人が参加。研究発表や講演などで小中一貫教育や学力向上について理解を深めました。講演には宮崎大学の新地辰朗教授が登壇。教育の情報化の展望や先進事例を通して、その必要性と効果を説明しました。

事例発表を行う市教育研究センターの研究員ら。同日、県内のスーパーティーチャーなどを講師に招いて教員の研修も行われました

市内中学生と交流深める 姉妹都市能登町の中学生来市

7月25日から27日、姉妹都市石川県能登町の中学生21人が市を訪れました。ひなもり台県民ふれあいの森でのキャンプや、ホームステイをするなどして市内中学生11人と交流。参加した永久津中１年の假屋采那さんは「みんな面白い人。友だちになれてよかった」と話していました。

初日は、ひなもり台ふれあいの森で対面式を行い、ベーベキューやキャンプファイヤーを満喫。大自然の中で、友情を深めました

もぎたての甘さ楽しんで ナシ・ブドウ観光農園が開園

7月30日、東方の永迫梨園、小原梨園、海蔵梨園の３農園からなる坂下地区観光農園の開園式が行われました。坂下梨振興会海蔵智裕会長が「今年は特に糖度の乗りがいい。最高品質の果実を届けることができてうれしい」とあいさつ。式後は永久津保育園の園児らがナシ狩りを楽しみました。

ナシを収穫する園児。8月６日には、種子田地区観光農園もオープン。観光農園の問い合わせは、小林市観光協会（TEL 22 - 8684）まで

熱い火花散らす溶接技術大会

7月26日、宮崎県溶接技術競技会小林地区大会が行われ、個人・団体が２部門で溶接技術を競いました。【以下優勝・敬称略】●アーク溶接の部（個人）＝三原省一郎、（団体）＝㈲山下鉄工所●半自動溶接の部（個人）＝出水孝政、（団体）＝㈱タネダ

西小林住民らそうめん流しで涼感満喫

7月27日、にっこばまちづくり協議会と西小林小PTAやっちみろ会が共催し、西小林小学校でそうめん流しが行われました。住民ら約120人が参加。参加者は、自分で作った竹製の箸と器を使い、流れてくるそうめんや地元産の野菜など食べていました。

宝くじ助成金で太鼓７基を購入

小林幼育園の園児、卒園児や保護者らで結成される元気太鼓クラブがコミュニティ助成事業（宝くじ助成金）を活用し、和太鼓７基を購入しました。同クラブ代表の和田友樹さんは、「地域を盛り上げるために大切に使っていきたい」と話していました。

赤ちゃんとふれあい命の大切さ学ぶ

８月８日、赤ちゃんふれあい体験が保健センターでありました。市内の中学生８人が参加し、子育て中のお母さんや赤ちゃんとのふれあいを通して命の大切さを学習。永久津中２年の押川明奈さんは「抱っこしたとき、笑ってくれてうれしかった」と話していました。